

# 博物館学芸員養成課程との連携

## —学生と考える、学生のための西南学院大学博物館—

山尾 彩香

### はじめに

大学博物館は大学における社会に開かれた窓口として地域貢献の場であると同時に、高度な学生教育の場としての使命を帯びている。そもそも大学博物館とは『ユニバーシティ・ミュージアムの設置について』(1996年、文部科学省審議会学術資料部会)において、「大学において収集・生成された有形の学術標本を整理、保存し、公開・展示し、その情報を提供するとともに、これらの学術標本を対象に組織的に独自の研究・教育を行い、学術研究と高等教育に資することを目的とした施設」とある。その教育機能においては「学術標本を基礎とした大学院・学部学生の教育に参加するとともに、博物館実習をはじめ大学における学芸員養成教育への協力を行う。また、一般の博物館の学芸員に対する大学院レベルのリカレント教育や、人々の生涯にわたる学習活動にも積極的に協力することが望ましい」としている。上記にある通り、大学博物館の学芸員養成教育の機会ともなる博物館実習については、本館も2009年度より毎年度、本学からの学芸員実習生の受け入れを行っている。

西南学院大学博物館の開館10周年である2016年には、2006年の開館以来の総来館者数が13万人を超え<sup>1</sup>、これまでの博物館活動によって地域貢献の場としての大学博物館の地盤を築いてきた。しかし一方で、学内の博物館利用状況に関しては、本学学生や教職員による来館者数は全体の25パーセントに満たない<sup>2</sup>。学生教育の場として、学生による大学博物館の活用が十分になされていない現状が浮かび上

がる。学生に大学博物館を活用してもらうにはどうすればよいのだろうか。折しも、文化庁主催の平成28年度第6回ミュージアム・エデュケーター研修において、自館の教育学習事業についての見直しと改善について考える機会があった。そこで学生生活用のための具体的な改良プログラムとして以下のことを実践した。

まず、全体の大きな課題として「西南学院大学博物館が学生により活用してもらえる場とするにはどうすればいいのか」を掲げ、ねらいとしては①現役学生による視点の導入、②博物館職員の意識と学生の意識のズレの表層化と認識、③学生による博物館経営の実践、④学生の物事を分析・評価し問題解決に導く力の養成、⑤博物館職員による学生誘致のための改善案実践を定めた。課題とねらいを達成するための取り組み方法としては、①大学博物館職員による問題の提起と改善策の提案、②学生による問題の提起と改善策の提案、③学生の改善策をうけて、実現可能な改善策の選出と博物館職員による実践、を計画した。

研修で学んだ手法を取り入れ、「大学博物館が学生により活用してもらえる場とするにはどうすればいいのか」というテーマのもと、博物館側と学生側との認識の違いを実感し、それ自体が学生の教育にもなり、なおかつ博物館改善にもつながる実践的な教育プログラムを実行するねらいだ。教育プログラムの実践の場としては、当館学芸員が担当する博物館学芸員課程の「博物館経営論」の講義の2コマを用いた。

# I. 2016年度博物館経営論「大学博物館の学生生活用のためのグループワーク」

## 1 講義の目的

「学生教育の場としての西南学院大学博物館」の在り方に重点を置き、1コマ90分の講義を2回にわたって行った。本講義の課題として「西南学院大学博物館が学生により活用してもらえる場とするにはどうすればいいのか」を設定し、大学博物館が抱える問題点の把握、分析と改善策の検討、現役学生による視点の導入、博物館職員の意識と学生の意識のズレの表層化と認識、学生の実践的教育を目的とした。とくに、学生の実践的教育とすべく、博物館経営論を選択したのは、この講義が博物館運営に深く関係する科目であったのと、また具体的なマーケティング対象として本学学生を設定できることであった。

## 2 第1回「改善提案書をつくろう！」

グループワーク第1回目の講義では、「学生の立場・視点を生かし、西南学院大学博物館の問題点を挙げ、それを解決するための方法(改善案)をグループで提案する」を課題とした。学生が課題を達成するために、「リサーチ：博物館探索」、「ディスカッション：改善案会議と改善案提案書の作成」、「プレゼンテーション：改善提案の発表」の三段階の過程を設けた。また、博物館職員にも同様の「リサーチ」

と「ディスカッション」を本講義前に実施している。

### (1) リサーチ：博物館探索

まず、博物館経営論を履修している本学学生(18名)に博物館パンフレット、開催中の特別展リーフレット<sup>3</sup>と3色の付箋を配布し、博物館全体を対象に20分間ほどの探索を行った。探索の際、テーマである「西南学院大学博物館が学生により活用してもらえる場とするにはどうすればいいのか」を起点に、付箋には色ごとに課したルール(青の付箋は「いいね! (推奨)」、黄の付箋は「なぜ? (疑問)」、赤の付箋は「こうしたら? (提案)」)に従って各自で意見を書き込む(表1)。この個別の意見が、のちのグループで作成する改善案の大きな手掛かりとなる。また博物館職員も、事前に同じ内容で意見出しを行った(表2)。博物館職員は学芸員(1名)、学芸研究員(2名)、学芸調査員(1名)を選出した。

ここで注目したいのが、学生と博物館職員による認識のズレである。学生は主に展示に関する細かな問題点を挙げているのに対し、職員は具体的な事業としての学生生活用の提案を行っている。目線が来館者により近い学生による気付き、すなわち博物館の行き届いていないサービスや問題点を博物館職員が認識していない、または博物館の実情から妥協していることが伺える。

グループ	推奨	疑問	提案
A	・魔鏡はちょっとした部屋になっているし、体験できるので楽しい	・写本、鏡など展示物の種類ごとに並べられていることはわかるけど関連がわからない	・植物の世界はとてもおもしろいけど、字が多すぎて読む気になれないので、もっと絵を増やしたいと思う
	・西南博物館の復元の作業も展示が面白い ・テーマわけがはっきりしてる	・バプテストに関するものはないのか ・なぜ長崎に由来するものが多いのか。福岡で起こったキリスト教に関する事例はなかったのか	・学校に関連するものが少ないので、西南に関連させたほうが学問興味がかきたてられると思う
	・温湿度計がある ・資料がみやすい(聖書の裏表紙など)	・聖書植物の管理は誰がしているのか ・ショーケースに指紋がつきやすい? → ふく	・スタンプラリーの台が低すぎるから、高くしてこどものために台を置く
			・模型はななめにして真上から見えるほうがいい ・メジャ碑文のキャプションを目の高さには無理なのか

グループ	推奨	疑問	提案
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魔鏡が体験できる点</li> <li>・予告の掲示→次回もきてくれるかも</li> <li>・スタンプラリーがあって館内すべてを見学できる点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入口にステンドグラスがあったがなぜおかれているのわからなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に博物館を興味持ってもらうために、授業で宣伝したり博物館見学を授業に取り入れたらいいと思う</li> <li>・企画パネルコーナーの展示品がなぜこれが展示されているのかパッと見わからなかった(なぜ⑧からなのか)</li> <li>・展示の説明に平仮名や英語などを加えると留学生にもわかると思う</li> <li>・レンガ造りが見れるようになっているが目立っていない点→文字を大きくしたりそこだけ目立たせる</li> <li>・二階に行く道がわかりにくいいため案内図を出入り口に設ける</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧領主有家家中のけが人の記録書き下し文が、大事なところが赤字になっている</li> <li>・聖書植物押し花になるまえの写真がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宗門御改影踏張見開き2ページしか見られない</li> <li>・古文書に書き下し文がないのが多い。できれば現代語訳もほしい</li> <li>・国名や時代が書かれてないものがある</li> <li>・「複製」しか書いてなくて「実物」と書いてあるものはないので、どちらかわかりにくい</li> <li>・トイレがせまい。大と小がひとつずつしかない</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示室の中間地点に椅子がおいてあり、休憩できる。またそこにパンフレットなどもあるので見れるからいい</li> <li>・スタンプラリーがあるためスタンプを集めながら楽しくみれる</li> <li>・消火栓の色などが博物館の雰囲気に合わせた色であるのがいい</li> <li>・はいつてきたらイベントの予告等がありとてもいいと思った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入口にあるメシヤ碑文などはむき出しに展示されているがいいのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むきだしに展示されているものに触れないようにバリケードを作ればいいのか</li> <li>・入口、出口の段差が危険だからなくしたらどうか</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レトロ感があっていい(建物)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンプラリーの台が低い→高くする</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順路がきまっている</li> <li>・テーマごとに展示物が並べられており理解が容易である</li> <li>・スタンプ台が子供用に低くなっている</li> <li>・スタンプラリー→子どもが楽しめる</li> <li>・雰囲気(静か)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レプリカが多いのはなぜ？</li> <li>・映像展示がない</li> <li>・虫対策は行っているのか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示資料の聖書の翻訳がほしい→理解が容易にできる</li> <li>・キリスト教関連以外にも地元福岡や西新地区の資料や展示も少しほしい</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示替えがあって少し新鮮な気持ちでみる事ができた</li> <li>・かすかにパイプオルガンの音が聞こえて雰囲気がある</li> <li>・レトロな雰囲気</li> <li>・福音書の背表紙装飾がこっているのを裏から鏡でみせてあるのがよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隅のほうにある作品に光をあてないのはなぜ？</li> <li>・限定の展示品入ってすぐじゃない？少し位置がわかりにくいかも</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料読むスペースに目録があってもいいかも</li> <li>・暗くて少しわかりにくい(背表紙)明かり</li> <li>・ショーケースの高さ高い→目の届く高さ</li> <li>・聖書の写本、どんな内容が書いてあるのか訳があるともっと興味をもてるのでは</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンプラリー</li> <li>・出口のすぐちかくに予告ポスターがあり、興味をもちやすい</li> <li>・博物館ニュース。大学博物館への関心が高まる</li> <li>・展示品ひとつひとつに解説</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館に関する情報に触れる機会が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャペルでの紹介</li> <li>・冊子の展示品に斜めにして見やすくしたほうがいいのか</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画パネルコーナー外とのつながり</li> <li>・雰囲気</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物園パネルのところ防壁パンフ</li> <li>・メノラーだけ別の場所にある</li> <li>・ロゼッタ碑文の位置。中にも石あり</li> <li>・暗くて見にくいところ。なぜ電気がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のものは日本のブースにおくべきでは？キリスト教と関係なさげ。鏡とか</li> <li>・英語表記がない</li> <li>・入口はいつて聖母マリアの説明書きが読みにくい。斜めにしては</li> <li>・聖書は長すぎなので文書系の短いもの日本語訳をおいてはどうか</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の植物園を紹介しているところ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・字が小さいところ</li> <li>・説明が低い場所にあるところがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像をつかう</li> <li>・もう少し明るくする</li> </ul>

グループ	推奨	疑問	提案
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンプラリー</li> <li>・テーマが明確</li> <li>・他大学とのコラボ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供向けのキャプションが少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・触るなどの体験型のものがないので増やして見たら</li> <li>・場所が悪い。奥まわってわかりづらいので大々的に宣伝する</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物自体に歴史がある</li> <li>・子供向けのワークショップなどをしていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ2階の講堂の椅子のらくがきをけさないのか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外の電気(内)を多くする。暗くて見づらいので</li> <li>・目玉の魔鏡の場が地味でわかりづらい</li> <li>・子どもにはわかりにくい展示</li> <li>・キリスト教のこども向け絵本などをおいてはどうか</li> <li>・専門用語の説明</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物そのものを生かした展示をしている</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示内のトピック展示がわかりにくい→展示室内でわかりやすい宣伝をすればいいと思う</li> <li>・キリスト教の基礎知識がないまま読むには少し難しいキャプションがある→用語解説パネル・パンフレット等を置くとよい</li> <li>・順路が一本道でない→人が行き来するため多くの人が来た時に混雑しやすい</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迷子にならない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流れがわかりづらい</li> <li>・文字(説明文)の大きさ</li> <li>・中が暗い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書などの展示に角度がほしい</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ島原・天草一揆を出口裏におきつつ古文書をおいたのか</li> <li>・復元作業についてのパネルのあとがヘブライ語聖書の系統図か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドージャー室を企画室に代用できないか</li> <li>・ガラスの上に説明文をおいたらどうか</li> <li>・西南博物館の認知度をあげる</li> </ul>

表1 付箋集計(学生)

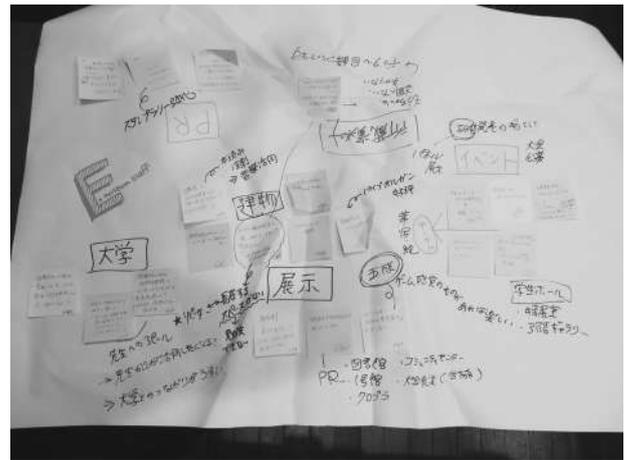
職員	推奨	疑問	提案
学芸員			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生をまきこんだイベントを開催する←講義、サークル、団体など</li> <li>・児童教育学科と協力したイベントを→こどもWS:学生にとっては子供教育関係の仕事に携わるのに事前の実践教育の場になる</li> <li>・学生に対するPRの仕方を改善(全学生に情報を届けるには)→入学式でパンフを配布。Sainsで配信</li> </ul>
研究員			<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で活用してもらえる機会を増やす→ゼミなど研究活動等の紹介を行うスペースを作る(3階ギャラリー)</li> <li>・学生とタイアップしてイベントを行う。サークル、ゼミなど</li> <li>・ミュージアムグッズが増やせたらいいな</li> </ul>
研究員	歴史的建造物のところ。レンガ造りで雰囲気がいい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生向けにイベントはないの?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内展示(博物館以外)をしたらどうか</li> <li>・学生サークル(美術や写真など)などによる展示→ギャラリースペース(会場)の貸し出し</li> </ul>
調査員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お洒落な外観。雰囲気のある内装</li> <li>・とろとろになった階段</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際文化以外の学生にとって、どんな意味(利用方法)が思い浮かぶのか?</li> <li>・BGMってどうしてないの?</li> <li>・部屋割り完璧すぎない?もう少し自由に使える余白がほしい</li> <li>・そういえば触れる常設展示品がない気も…</li> <li>・講堂ってどんな授業にも映えるのだろうか?(オルガン以外で)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所蔵資料や解説(来歴)などがわかりにくい→資料検索用のパソコンの設置(図書館みたいな)</li> <li>・学生ボランティア(展示解説など)の募集をしてみてもどうか→学生ボランティア自身の勉強にもつながるし、友達などを呼び込んでほしい</li> </ul>

表2 付箋集計(博物館職員)

(2) ディスカッション：

改善案会議と改善提案書の作成

博物館の個別リサーチを終えたあとは、4～5名で構成される4つのグループにわかれ40分間のグループディスカッションを行った。グループディスカッションは博物館探索で意見出しを行った個別の付箋を模造紙に貼り出すことから始まる。付箋の内容をグループ内で共有し、類似した意見ごとに整理・分析をすることで、視覚的にも問題点が浮き上がる。その中からより重要度の高い意見を抽出し、具体的な改善提案をグループで議論した。



模造紙と付箋を用いた整理と分析

ディスカッションを取り入れたのはグループワークにおける重要な学びの場となることと、学生の就職活動や就職してからの助けとなることを期待したからだ。グループディスカッション中はアドバイザーとして各グループを回ったが、グループディスカッションに不慣れである学生が多い印象を受けた。グループワークの最後日に記入してもらった学生の感想からわかったことだが、これは大学でグループディスカッションを行う講義が意外と少ないのが原因であろう。学生同士の交流と、集団で議論し短い時間で結論を導き出す実践的学習の機会を設けることもまた、学生教育の一環であると考えます。

ディスカッションの最終目的は、まとめた意見をもとにグループでA4用紙一枚の改善提案書を作成することだ。改善提案書の項目はそれぞれ「改善案名称」「問題提起」「改善案」「成果予想」を設定した。

(3) プレゼンテーション：改善提案の発表

第1回目の講義の最後は、完成した改善提案を発表するプレゼンテーションである。各グループ3分

間の持ち時間を設定し、全グループが発表した。各グループの改善提案書の内容(表3)は、テーマが「西南学院大学博物館が学生により活用してもらえる場とするにはどうすればいいのか」であったためか、宣伝活動、とくに博物館の存在認知に重きをおいた提案が多かった。本講義の履修生は博物館学芸員課程の学生であり、他の学生よりは大学博物館に親しむ機会が多い。それにもかかわらず、博物館の存在自体を認識させることに重要性を見出したのは、いかに学生が博物館の存在を意識していないかの表れだといえる。あらかじめ博物館職員で作成していた改善提案書と比較してみると、やはりリサーチの付箋段階でもみられた同様のズレが見られた。博物館職員は「大学博物館は学生にある程度の認知されている」という認識のもと、より具体的な学生誘致を提案したのに対し、学生側は「そもそも博物館の存在が学生にほとんど意識されていない」という認識を表出した。博物館の認知度における前提条件のレベルのズレがそのまま表れた形となった。

グループ	改善案名称	問題提起	改善案	成果予想
A	大学生に手軽で魅力的な西南博物館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近寄りやすい外観、周辺の雰囲気になっている</li> <li>・展示の見にくさと、キャプションだけじゃ資料の内容がわかりづらい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館の周辺の季節感を出す(例：植物、ライト)</li> <li>・学校イベントとの関連(例：ミスコン)</li> <li>・資料は斜めに展示する。道具の使い方のイラストを加える</li> <li>・建物の歴史に関する豆知識などを一つの資料にまとめてストーリーをわかりやすくする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示物が見やすくなるため、ガラスケースの指紋がつきにくくなる</li> <li>・写真映えする博物館の建物に大学生が集まる。(例：SNSへの投稿のため)</li> </ul>
B	学生に博物館を認識してもらうための改善案	①そもそも大学生が博物館に興味をもっておらず、来る回数が少ない	改善策①キリスト教学の授業で、最低1回は、博物館で授業を実施し、展示物や聖書植物に関する講義を実施する	学生が博物館を知る ↓

グループ	改善案名称	問題提起	改善案	成果予想
B		②博物館の存在を知らない人がある ③何が展示されているか知らない人がある	→博物館の存在や、展示物の内容を知ってもらうきっかけ (問題提起②③に該当) 改善策②展示分野の幅を広げ、キリスト教に関する展示以外に、その時に話題になっていることに関する展示を実施する 例)シン・ゴジラの流行→ゴジラに関する特別展の実施 →大学生が興味を持つような特別展示を実施(問題提起①に該当) 改善策③博物館に関するアンケートを授業等に実施 →博物館で実施してほしいイベント・展示等の意見を聞き取り上げる	興味を持つようなイベント・展示の実施 ↓ 日々イベント・展示の内容を変え、リピーターを増やす
C	博物館の情報に触れるきっかけづくり	情報提供の少なさ	博物館の情報に触れるきっかけづくり ・西南学院大学博物館ニュースを大学構内にも設置 ・チャペルの時間内に博物館資料について取り上げる ・図書館、西南会館、生協にも資料設置(大学生の目の高さ) ・博物館のツイッター、フェイスブックを大学の公式アカウントにリツイート、シェアしてもらう ・アプリケーションと連携する 例)スタンプラリーを展示会毎に変えて、何度も来てもらう	来館者が増える
D	博物館学生集客度改善案	・知名度の低さ ・入りにくい(魅力がない) ・展示に変わり映えがない ・キリスト教の授業と関連がない	【知名度の低さ】 宣伝のやり方を変える ・キリスト教などの授業に組み込んでもらう ・学生ホール等への出張展示 ・専用HPやfacebookではなく、学生が絶対目につくsainsポータルに宣伝を出す(視覚にうったえる形で) 【入りにくい(魅力がない)】 ・街灯を増やす ・入りやすい入口に(明るくするなど) 【展示に変わり映えがない】 ・学部に応じた展示にする(法律—法典、経済—通貨についてなど)(学部ピックアップ) ・キリスト教から一度離れる(大学祭の時は、大学祭関連の展示を) ・“みる”だけの展示が多いため、触る、かぐ等五感を使う展示を増やす ・学生主体の企画展示	知名度の上昇、入りやすくなる、一般人を含めた集客率のアップ
博物館	博物館の門戸解放計画	狭いスペースを無駄なく使用した博物館 意外と利用者は限定的(一部の授業、国際文化学部の学生など) →より広範囲の人々に使ってもらえるためのPRイベントを考える	学部を越えた連携—サークル ①サークルの成果展 ・学生ホールで開催しているのを博物館に誘致。ギャラリースペースの貸し出し →より一般の人々に見てもらえるメリット ②大学祭連携イベント ・来場者一万人イベント、サークルの展示、グッズ配布など ・仮装(宣教師、天草四郎、ドージャー先生など博物館に関連したもの) ③インスタグラム映え ・インスタグラム用のパネルなどの作成 ④生協とのコラボ ・ユダヤ教や博物館資料に関連した食事体験や販売 ・仮装グッズの販売	・学生の自主活用が増える。授業で強制するのではなく、空き時間に気軽に来館してもらうようになる ・来館者分布の拡大(幅広い学部生の来館)

表3 改善提案書の内容(全グループ)

### 3 第2回「企画書をつくろう！」

グループワーク第2回目の講義の課題は「改善提案書に対する批評とその整理分析をおこない、具体的な企画書を作成する」である。課題達成のために本講義では「レビュー：改善提案書の批評」、「ディスカッション：再検討と企画会議」、「プレゼンテーション：企画発表と評価」の三段階の過程を設けた。また、Eグループとして博物館職員(学芸員1名、研究員1名、調査員1名)も参加し、前回の講義を欠席した学生2名もこのグループに含まれる。

#### (1) レビュー：改善提案書の批評

本講義ではまず、前回の講義の最後に行った改善提案の発表とその内容を批評することからはじまる。前回作成した全グループの改善提案書と、3色付箋を全員に配布し、各グループの机に模造紙を設置した。学生に改善提案書の批評を色のルールに従い付箋に書き込ませ、該当グループの模造紙に貼り出させるためだ。各グループに寄せられた批評は表4の通りである。なお、重複や類似性の高いコメントは要約して載せている。付箋を用いた批評はこれで2回目であるが、1回目が博物館全体を対象とし

たのに対し、今回はより具体的な、しかも同じ立場の学生が提案したものであることから、客観性と主体性のバランスが取れた批評が多くなり、内容もより充実したものになっている。

各グループの改善提案書の個人批評を見てみると、ふたつの立場が明確化していることがわかる。ひとつめは、講義全体の大きな課題のひとつである「学生の立場・視点」を生かしたものである。現役の学生からの具体的な意見は、博物館側にとっても有益な情報となる。そしてふたつめが「博物館学芸員課程を履修している学生としての立場・視点」である。博物館職員が実際の博物館経営と照らし合わせて意見を出しているのは当然としても、批評を行った多くの学生が、博物館学芸員課程でこれまで学んできた知識や経験を生かした意見を述べていた。博物館の経営や運営にあたり、問題とされる改善案に対して的確な批評を行っているのである。博物館学芸員課程の座学での学習成果が、試験やレポート、あるいは実習でしか推し量ることができない現状で、学生教育の成果が目に見える形で提示されたのは学生、博物館双方にとっても貴重な機会となった。

グループ	推奨	疑問	提案
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節感を出すこと。植物は聖書と関連するものだと尚いい</li> <li>・建物の歴史に関する資料を作る事で、展示物以外にその建物自体へ興味関心を来場者に与えることはとてもいい取り組みだ</li> <li>・学校イベントと関連づけるところ</li> <li>・道具の使い方のイラストがわかりやすい。使い方を想像しやすい</li> <li>・建物の歴史を年表だけでなくストーリー仕立てでわかりやすく伝えようとしている所</li> <li>・ミスコンは難しいが、学校のイベントと連携して何かを行うことはいいと思います(博物館職員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入口が暗い雰囲気→レトロ感を出すためにあえてその雰囲気なのでは？</li> <li>・展示スペースは小さいが、イラストまでいれるのは大変ではないか</li> <li>・建物がなんの建物かがわからないけども、学生は建物に興味をしめすものなのか。そもそも豆知識などを知って何に役立てるのか疑問に思った</li> <li>・ミスコンとどうやって関連？ミスコン自体に抵抗がある人も多いのでは？</li> <li>・植物やライトでどう季節感を出すのか？</li> <li>・近寄りやすい外観が問題提起にあがっていましたが、それに対する解決策として「季節感を出す」があげられていますが、根本的な解決にはつながらないのではないのでしょうか？</li> <li>・展示の見にくさ→専門性とわかりやすさは共通のサイトライনেরものはないか(博物館職員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校イベントと関連させるのはいいと思う。学祭中に博物館でイベントを行ったりするのもよさそう</li> <li>・建物の歴史をまとめて映像にするのはどうですか</li> <li>・資料(キャプション)を二か所設置するなどはどうか</li> <li>・ライトアップや学校イベントなどで知名度はあがるかもしれないが、中までは行って展示を見るまではならないと思う</li> <li>・冬場などは早めにライトアップしてはどうか？(博物館職員)</li> <li>・SNSの投稿をうながすのはいいアイデアですね！具体的にどうすればいいのか考えてみてはいかがでしょう？(博物館職員)</li> <li>・建物の歴史に関するストーリーをわかりやすく→具体的にどのような方法が考えられるか(博物館職員)</li> </ul>

グループ	推奨	疑問	提案
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示分野を広げるのはとてもいいと思う。また、授業に博物館のことを組み込むのも知るきっかけになって面白い</li> <li>・授業で博物館に来るのは強制的だがいいと思う</li> <li>・キリスト教の授業(全学生履修)をすることがとてもいいと思った。自然と興味がわきそう</li> <li>・アンケートは様々な意見が聞けるし、学生の生の声を聴けるのでイベント、展示に生かしやすいなと思いました</li> <li>・改善案②について、学生が興味を持つような展示を行うというのはいいと思いました。そこから大学博物館へ興味をもってもらえる工夫も行いたいです</li> <li>・学生向きにそった計画をたてるのはいいと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示分野で、広げるのはいいが、少しでも地元福岡や大学に関わる展示にするのはどうか？</li> <li>・その時の話題を展示ではあまり回数もできないことと、特別展のようなものはいつも金額が高いけどそこはどのようにしていくのか？</li> <li>・キリスト教以外の展示、博物館のテーマとちぐはぐな感じにならない？</li> <li>・改善案②について、時事ネタをとりあげた展示、従来のキリスト教関連の特別展もあり、特別展の回数が増えすぎるのでは？ 話題になる事柄に合わせた展示をするなら、その事柄が話題になる前から展示の準備をしないと間に合わないのでは？</li> <li>・流行は短期のものが多く、資料集め、展示の入れ替えは大変なのは？</li> <li>・改善案③について、博物館の知名度がないと成り立たないので、この改善案を実行するにはかなりの時間が必要だと思います</li> <li>・授業中のアンケートは提出しない人がいるのでは？ (出席点などにされるのか？)</li> <li>・博物館で講義をするとすると2階の講堂以外の移動は混雑するのではないか</li> <li>・②キリスト教や福岡に関連展示以外は博物館の方向性と合わないので難しい</li> <li>・そもそもどのくらいの人が博物館を「知らない」のだろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で扱う展示物はどうやって決めるのか？</li> <li>・その時の話題になっているものは面白いけど、どうやって収集する？ゴジラの場合も、制作会社への問い合わせ、許可など膨大な時間と費用がかかると思う。キリスト教からあまりはずれない方がいいと思う</li> <li>・イベント開催にしても規模や費用の制限が多く、それ自体をさくのは少し難しいと思った</li> <li>・キリスト教ではなく、西南学院史での講義で博物館に来るような授業を実施しては？ (全学部が多履修でき、また履修している講義での実施)</li> <li>・活動内容をお知らせするための対策があるとOK!!</li> <li>・当館は展示資料収集方針が定められているため、テーマ設定などに制約があるので、テーマによっては難しいと思います。この制約の範囲内でどんなテーマなら学生が興味をもつか提案してもらえるといいと思います(博物館職員)</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャペルでの宣伝は効果的だと思う。アプリとの連携は知るきっかけになるし、人も集まるのでとてもいい</li> <li>・SNSで西南全体で協力することは効果的だと思う</li> <li>・生協等、西南会館にはチラシが多くまた人もたくさん来るので博物館に関するパンフレット等を置くことは多くの人が目にするきっかけにもなりとてもいいと思いました</li> <li>・大学公式アカウントの方がフォロワーも多いので、リツイート、シェアしてもらおうのはいいと思う</li> <li>・おおむねいいと思います。チャペルについては講話される先生にお願いする必要があるのでは実現可能かどうかは不明。スタンプラリーは費用の問題が解決すればOK(博物館職員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャペルの時間内にとりあげるのは1つの展示物？それとも展覧会内容やその宣伝？</li> <li>・大学生になってどれくらいの方がスタンプラリーに興味を感じるのか</li> <li>・アプリケーションについてどのように利用するのか。また、そのアプリを誰が使うのか。使い方、テーマ、内容、形式など</li> <li>・チャペル利用者、ツイッター、フェイスブックの公式アカウントを見る人の数は多くないのでは？</li> <li>・すでにある学院HP中の情報との調整は？ (二度手間になるのでは)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を置くだけでは目を向けてもらえないと思うので、キャンペーンなどの活動を学生委員会などと連携していったらどうか</li> <li>・チャペルはそれぞれの先生との連携が必要である。アプリになると来館するだけで中身に触れてくれなさそう。なので内容に触れる工夫をすると思う</li> <li>・資料設置は移動させたり展示中などでの破損、といったことが起こりやすいと感じる。またその設備には時間と労力があるため、しょっちゅうはできないと思う</li> <li>・博物館内でケイタイを使うのはマナー違反では？ (スタンプラリー)</li> <li>・資料を各所に設置したところで、はたして集客効果が見込めるのか気になりました→提案ですが、たとえば資料に「博物館に行くと景品がもらえる！」的な集客方法もありかと</li> <li>・自分もそうだが、大学構内の掲示物や資料はほとんど目にしないし、取らないと思う</li> <li>・チャペルの時間はいいと思うのですが、チャペルは出席者が限られているので、もう少し不特定多数の目が触れる場所で展示を紹介してみてもいい</li> <li>・博物館以外の大学キャンパス内での出張展示、いいアイデアだと思います。具体的にどういった展示を行うと効果的なのか考えてみたらどうでしょうか(博物館職員)</li> </ul>

グループ	推奨	疑問	提案
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張展示はとてもいいと思う。五感を使う展示は私も体験したいと思った</li> <li>・学部ごとに展示というのはとても面白いと思います！</li> <li>・カリキュラムに組み込むことは自然と足をはこぶキッカケになると思う</li> <li>・入りにくいので街灯や入りやすい入口にすることはとてもいい考えだと思う。人間を相手にするからそのあたりの配慮も必要だと思う</li> <li>・大学と一体となって、展示物の公開や授業を実施することで必ず目にふれてもらう案は良いと思いました</li> <li>・sainsポータルに宣伝を出すこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入りやすい入口とは具体的にどのようなものか</li> <li>・においをかいで感じる展示とは例えばどのようなものですか？</li> <li>・出張展示は何を出張して展示するのか。具体的に知りたい</li> <li>・学生主体とは具体的に？</li> <li>・学生ホールは不特定多数の人がくる場所、展示品の管理は？</li> <li>・宣伝がバナーだと嫌がる人もいないでしょうか</li> <li>・キリスト教から離れると、館の方向性とずれる。また、学生主体の企画展示は実習生展示がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張展示はキリスト教の内容もすべきたが、大学に関連した内容の方が興味をもたれるのでは</li> <li>・週替わりはハードだと思う。芸能人に関するものがよくわからない</li> <li>・メルマガは学生向けじゃない気がする。SNS利用の方がいい気がする</li> <li>・学部に即した展示→その学部の展示になったら専門演習の授業で博物館にきてもらう</li> <li>・キリスト教の授業に組み込むのはいいと思う、授業の一環で博物館に行くなどもよさそう</li> <li>・学生ホールだけでなくチャペルでも出張どうですか</li> <li>・別の場所で展示をするのはいいと思います。場所と展示できる資料には制約がありますので(展示環境の問題)、具体的にどのような場所でどんな展示ができるか提案してもらえるといいなと思います(博物館職員)</li> <li>・学生ホール等へ出張展示→どういう展示を考えますか？出張展示を見て、博物館に足を運んでもらえる展示(博物館職員)</li> <li>・学部に即した展示はいいですね！具体的に展示はどのように行ったらいいのでしょうか？準備や展示作業に、スタッフだけでなく学生も参加するような内容など(博物館職員)</li> </ul>

表4 改善提案書に対する批評一覧

(2) ディスカッション：再検討と企画会議

批評を受けて、各グループは改善提案書の見直しを行う。他グループのメンバーから寄せられた意見を参考に、改善提案書を基盤としたより具体性のある企画内容を考え企画書を作成するためだ。企画書の作成にあたっては以下の点を取り組み前に確認した。

改善提案書は現状の課題や問題点を指摘し、その改善を提案するのに対し、企画書はアイデアを実行するための具体的な計画を記載したものであること。複数の改善提案がある場合はひとつに絞ること。目的を明確にし、だれが読んでも企画を実行できるよう具体的にわかりやすい内容であること。企画のターゲットが学生(西南学院大学生)であること。そして、企画発表における3つの評価基準を意識することである。この評価基準は、テーマや目的と合致しているかどうかの「合理性」、企画内容はわかりやすかったか、実際に企画実行が可能かどうかの「計画性」、そして学生の立場として企画に魅力を感じ

るかの「独創性」である。これらを指標に各グループは企画書を完成させる。

グループの改善提案書に寄せられた個別の批評に対して学生からは、グループ内では気づかなかった問題点や疑問点、多様なアイデアなどが他者の視点で提供されることで視野が広がったという感想が多く寄せられた。目的を絞り、違った視点の意見を取り入れることで進行がスムーズになったと実感する学生もおり、改善提案のブラッシュアップが良い形でおこなわれたようだ。

(3) プレゼンテーション：企画発表と評価

本講義の集大成となる企画発表はグループ代表者による口頭発表と、各グループの企画に対する評価を全員で行った。発表の聴講側は、「合理性」「計画性」「独創性」の3つの評価基準に従って各10点満点で点数をつけ、企画に対するコメントを書く。各グループの企画内容と評価は表5の通りである。なお、評価欄の数値については①合理性、②計画性、③独

創性の各項目の平均値となっている。

講義全体を通しての感想を最後に記入し、2回にわたって行われたグループワークは終了となった。講義に出席した学生からは「案を考えることで博物館をより深く知る事ができてよかった」、「皆で意見を出し合い批評を受けることで視野が広まった」、「学生と学芸員との立場の違う視点をもてた」、「短い時間で難しかったが楽しく有意義であった」、「今回の経験を今後役立てたい」「自分の能力の反省点が見えたので改善していきたい」などの感想が寄せられた。一方で博物館職員からは「学生の要望は面白いものであった。キャッチーで面白そうでわかりや

すいものが求められている。しかし、迎合しすぎると博物館の命が失われてしまう」、「学生とスタッフのギャップを大きく感じた。アカデミックではなく大衆迎合にならないようにするためには様々な問題があると考えさせられた」などの意見があがった。学生は経営する立場に立って、博物館に対する理解の深まりを感じると共に、アイデアの表出、意見をまとめることや情報の伝達、批評することの難しさを実感したようであり、博物館としては学生の博物館への認知度(情報、展示、活動等)の低さが特に浮き彫りになる形となった。

グループ	企画名	目的	具体的な内容	評価
A	魅せよう西南博物館	博物館の外観の改善と誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆外観のライトアップ、装飾               <ul style="list-style-type: none"> <li>春：もともとある花を利用する</li> <li>夏：七夕(短冊だけでなくリボンなども結ぶ)</li> <li>秋：ハロウィン装飾(かぼちゃの中にランプをいれたり)</li> <li>冬：クリスマスイルミネーション</li> </ul> </li> <li>◆誘致：学校イベントとのコラボ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロングチャペルの時に博物館と学生委員会と連携して特別イベントを実施(in博物館)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>(例)聖書植物をつかった試食など</li> </ul> </li> <li>・学祭のとき、ミスコン、ミスターコンの方に博物館の外観を利用して写真を撮ってもらう</li> <li>・ツイッターの公式アカウントでかたくるしいだけでなく、学生のネタになりそうなことをつぶやく                   <ul style="list-style-type: none"> <li>(例)ポッキーの日にポッキーに似ている資料をのせる</li> </ul> </li> <li>・写真コンテストを行う</li> </ul> </li> </ul>	①7.4 ②7 ③7.4
B	特別展示の拡大	話題になっているトピックや、学部別に関連のある展示物を取り上げることで、キリスト教以外の特別展を実施し、集客効果を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>①キリスト教と離れた特別展示を実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状、キリスト教に関する展示のみのため、キリスト教に興味のない人の集客が見込めない</li> <li>→あえてキリスト教というテーマからはずれ、話題のトピックや学部別に関連のある特別展示を実施</li> <li>(1)原則、月1回で入れ替え</li> <li>(2)展示物(特別展の内容)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・話題のトピックに関する展示(例：シン・ゴジラ)</li> <li>・学部別の展示(例：法学部の場合、法典の展示)                       <ul style="list-style-type: none"> <li>→授業などで活用してもらう</li> <li>→展示物によっては100年会館と連携して行う</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>②現在の西南博物館の規定を改訂               <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教に関するもの</li> <li>・地域文化に関するもの</li> <li>・教育文化に関するもの</li> <li>→以上の規定を緩和し、集客効果を上げるためにキリスト教以外の展示も可とする</li> </ul> </li> </ul> </li></ul>	①7 ②6.2 ③5.5
C	宣伝の多様化	情報に触れる機会を増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刊行物について(刊行物はもっと親しみやすく色とかデザインとか)               <ul style="list-style-type: none"> <li>対象：本学学生</li> <li>内容：大学博物館ニュースを大学構内に設置する。図書館、西南会館、生協にも刊行物を設置する</li> <li>目的：興味のある人が手にとれるようにする</li> </ul> </li> <li>・チャペルについて               <ul style="list-style-type: none"> <li>対象：本学学生</li> <li>内容：twitterやFacebookの本学の公式アカウントと博物館のアカウントを連携させる。SNSの利点を生かす。映像・写真をのせる</li> </ul> </li> <li>☆接する機会が増えるうちに、興味をもつようになる</li> </ul>	①7.8 ②7.5 ③5.5

グループ	企画名	目的	具体的な内容	評価
D	博物館学生集客度改善案Ⅱ	大学博物館の存在を知ってもらう	・学生ホールでのパネル展示 理由：博物館の存在を知ってもらうことが目的のため、学生の目に触れる機会の多い学生ホールが最適だと考えた。実物展示ではなくパネル展示を選択した理由は、持ち運び、管理のたやすさから 展示内容： ①博物館収蔵品の紹介→写真を交えてわかりやすく ②収蔵品から発展した豆知識→ザビエルの時代のヘアスタイル事情など ③学部展示→児童教育による制作物の紹介など 期間：月替わりに展示品を変える。期間は一週間 ※学芸員課程受講生及び実習生が作成・呼びかけ等を行う	①7.2 ②6.8 ③5.3
E	サークル勧誘時での成果展	新入生や在学生に博物館に来てもらう	サークル勧誘の机だしの時期。3階のギャラリーを使用し、文科系サークルに展示してもらう (例)写真部、美術部など 机だしでサークルに興味をもってくれた新入生を博物館に連れていき、サークルの成果や新入生に博物館を知ってもらえる メリット：在学生や新入生に博物館の存在を知ってもらえる 準備段階で、在学生などが何度も博物館に足を運ぶことによって、親しみを覚えてもらう	①7.3 ②7 ③6.3

表5 企画と評価

## II. 博物館活用の実践

博物館経営論のグループワークで挙げた学生視点からの改善案は、博物館職員で再度検討し、その中のいくつかを参考に企画の練り直しを行った。そして、2016年度から2017年度に博物館の新たな取り組みとして以下のものを実践した。

### 1 博物館による学生誘致のための新たな取り組み

#### (1) クリスマスイルミネーションと常設型ワークショップ

外観の改善に関するものにクリスマスイルミネーションがあげられていた。当館では毎年クリスマスシーズンには、学院によるクリスマス装飾でリースなどが飾られていたが、2016年度より新たにイルミネーション付きのクリスマスツリーを館内に設置した。常設展示室ではクリスマスに関連した展示も行い、それにあわせて常設型のワークショップも開催した。

ワークショップは「クリスマスツリーをかざろう!」と題し、内容はクリスマスツリーに付属する既成品オーナメントのほか、来館者の手作りのオーナメントをクリスマスツリーやツリーを模して作成したマグネットボードに飾り付けを行うものである。常設型のワークショップは初めての試みで、博

物館エントランスにて12月1日から12月24日まで開催した。クリスマスツリーの周りにはクリスマスやオーナメントに関する豆知識などのカードも飾り、楽しみながらキリスト教文化を学ぶ場の提供を意識した。寄せられたクリスマスカードには児童から学生、一般来館者、海外の来館者と多岐にわたり好評であった。

2017年度も継続し、設営準備には博物館実習生も参加した。クリスマス展示に関するこども向けのワークシートも新たに作成し、教育に関する内容の充実をはかった。ワークショップの参加者も増加がみられ、今後も継続して実施していく予定である。



ワークショップ「クリスマスツリーをかざろう!」

## (2) 学生ホールでのパネル展示

学生への博物館宣伝に学生ホールの活用があげられていた。学生ホールとは大学の中央キャンパスの2号館1階にあるホールを指し、ここには椅子やテーブルなどが設置され、学生サークルの催し物や構内掲示板などの張り出しが行われている学内共有の休憩スペースである。学生の利用率が高いことから、博物館宣伝の場所として効果的だと判断した。

学生ホールでのパネル展示は、2017年度春季特別展「島原半島の信仰と歴史―一揆とその後の松平治世―」(会期：2017年6月12日～8月7日)の関連企画として実施した。パネル展示期間は6月16日～6月30日の2週間。展示内容は、博物館の概要からはじまり、特別展ポスターと特別展の概要や各章の紹介、講演会の案内などを掲示し、特別展リーフレットも自由に持ち帰れるようにラックで設置した。この学生ホールの展示における準備設営は学芸調査員<sup>4</sup>が中心となり行った。

学生ホールでのパネル展示は今回が初めての試みであったが課題も多く残った。まず、学生ホールのパネル展示の集客効果の評価が難しい点である。パネル展示を見て来館した学生の判別が難しく、実際に効果があったかどうかの判断がつかなかったためである。特別展では来館者アンケートを実施しているが、来館動機にパネル展示の項目を設けてはいなかった。今後、学生ホール展示を利用する際は集客効果の可視化をはかる工夫が必要であろう。また、学生ホールのパネル展示自体の注目度も低かった。



学生ホールでのパネル展示

学生の利用率の高い学生ホールではあるが、パネル展示が目立たずに学生が気付かないという課題があったのだ。これは、展示の仕様などを検討する必要があるだろう。

## (3) 写真撮影可能スペースの設置

博物館の宣伝や学生誘致に効果的なものとしてSNS<sup>5</sup>の活用に多くの意見が寄せられた。その一環として、2017年度春季特別展では写真撮影可能スペースを設けた。撮影対象は展示資料ではなく、当館所蔵の「天草四朗肖像」と特別展タイトルを載せたパネルを設置した。また、これに併せて写真投稿を特徴とするInstagramのアカウントを博物館で新規に取得した。課題としては、写真撮影可能の掲示が小さくわかりにくい、展示室の狭さから写真が撮りづらい、写真撮影するほどの魅力的なコンテンツがないなどがあげられた。

撮影可能スペースとInstagramを中心としたSNSの活用については、夏期に行われた博物館実習の成果展で進展をみせることとなった。博物館実習成果展とは、毎年度博物館で実施している博物館実習の集大成として、実習生が準備から造作、設営までのすべてを行う企画展のことである。2017年度博物館実習成果展「つながる、つなげる、つないでいく #かわいいを結んでいく」(会期：2017年8月26日～10月27日)では、西南学院博物館の所蔵資料から実習生が厳選した、思わず撮ってみたいくなるような「kawaii」をコンセプトに、学生をターゲットとした企画展が開催された。来館者によるInstagramの投稿をとくに促す展示仕様となっており、ポスターはInstagramを意識したものがデザインされた。また、展示室入り口には投稿用のインスタグラム風フォトフレームを設置し、展示室内での資料撮影(一部資料除く)を可能とした。これは学生や団体見学の高校生などにとくに好評であった。

2017年度秋季特別展「キリスト教の祈りと芸術―装飾写本から聖画像まで―」(会期：2017年)でも写真撮影可能スペースは継続して導入した。本展示会はコレクション展であることから、特別展示室内の



インスタグラム風フォトフレームの設置

すべての資料撮影を可能とした。反省としては、写真撮影可能の告知をポスターやリーフレット等ではないため認知度が低かった点、撮影可能のパネル設置が一か所のみのため来館者が気付きにくい点などがあげられる。

写真撮影可能スペースとSNSの活用については今後も継続し、内容をより充実させていきたい。

#### (4) 西南学院大学図書館でのサテライト展示

2017年度秋季特別展では、西南学院大学図書館の1階のスペースと展示ケースを借用してサテライト展示を行った。秋季特別展では図書館からの借用資料があり、それを用いての資料展示と博物館および特別展の紹介パネルの掲示、特別展リーフレットとクイズシートの設置を行った。学生ホールの展示とは異なり、図書館の利用者は学内関係者に限られることからターゲット像がより明確になる点、セキュリティ面から実物資料の展示が可能であることが主な利点となる。また、学生ホールでのパネル展示の反省を生かし、学生の動向がわかるようにクイズラリーシートも導入した。クイズシートの内容は特別展に関連したもので、クイズに答えてシートを博物館受付に提出すると、特別展図録またはグッズがもらえるという特典をつけた。このクイズシートは図書館のサテライト展示限定配布とし、簡単なアンケートも記載しているため、より詳細な学生の情報を把握することができる。

課題としては、展示スペースが図書館の奥まった



図書館サテライト展示

ところにあるため図書館利用者が気付きにくい点、宣伝不足などがあげられる。学内向けのサテライト展示は、今後も改善し継続していきたい。

#### (5) 大学祭期間中のガイドツアーの実施

大学イベントと関連した企画に関して大学祭が取り上げられていた。西南学院大学の大学祭は11月の中旬に前夜祭などを含めて4日間開催される。これまで博物館では大学祭に際して特別なイベントは行ってこなかった。そこで、2017年の大学祭期間中に一般来館者向けの特別展ガイドツアーを実施した。11月17日(金)、18日(土)の二日間にわたり、午前(11:30～12:00)と午後(15:30～16:00)の部で各30分、計4回のガイドツアーを行った。これまで博物館職員による展示ガイドは、学内での講義活用が主で、団体受け入れの際に特に要望があれば請け負うものであった。一般来館者を対象とした当日受付の自由参加型のガイドツアーの開催は今回が初めてとなる。ガイドツアーの告知に関しては、ポスターおよびリーフレットへの記載のみで特別な宣伝活動は行わなかったが、25名の参加があった。本学学生から他大学生、留学生、一般来館者が主な参加者であった。参加者からは一般向けのガイドツアーを今後も継続してほしいとの要望の声もあり、定期的なガイドツアーの開催を検討している。

課題として、特別展示室の収容人数の問題からガイドツアーの受け入れ最大人数が10名前後、理想催行人数は5名前後と少人数であることと、ガイドツ



ガイドツアー

ツアーを行える職員が限られている点あげられる。催行人数に関してはガイドツアーの開催回数の増減や、複数ガイドツアーによる常設展示と特別展示の交代案内制の導入などを、ガイドツアーの担当に関しては学芸調査員も行えるように教育指導を行うことを検討している。

## おわりに

博物館実習をはじめとする博物館学芸員課程の教育活動は、大学博物館における学生教育の場としての役割を全うするための最たる機会ともいえるだろう。本稿では博物館経営論の講義を用いて、学生、博物館の双方に利点のある方法でもって博物館の学生教育についての見直しと検討を行った。そこでは、学生と博物館職員の間にある認識のズレが明確化され、学生にとっては博物館経営の実践的な学びを、博物館にとっては現役学生による貴重な生の声を得ることができた。また、学生の実践的教育だけにと

どまらず、得られた意見をもとに実際に博物館経営に生かし、いくつかの企画を実現することができた。これらは大学博物館だからこそ出来る教育プログラム、運営方法だといってよいだろう。大学博物館の第一義的使命は学生教育ではあるが、その結果として生涯学習の場としての博物館が充実し、地域に貢献できたのは大きな収穫でもあった。

大学博物館が学生の学びのためにこういった教育機能を担えるのか。そしてまた、学生の学びが大学博物館の社会に開かれた窓としての役割にどう生かせるのか。学生の生の声を取り入れることの意義は大きい。今後も学生を積極的に巻き込み、学生のための大学博物館ひいては地域貢献のための大学博物館の在り方を模索していくことが重要であろう。

末筆ではありますが、これまで博物館の教育普及活動に携わっていただいた関係者およびご理解ご協力をいただきました皆様に記して感謝の意を表します。

## 註

- 1 2006～2016年度の総来館者数138,086人
- 2 2006～2016年度の学内(本学教職員、本学学生)来館者数33,370人
- 3 2016年度秋季特別展「異国と福岡—江戸時代の長崎警備と対外交流—」(会期：2016年11月15日～2017年1月22日)
- 4 西南学院大学博物館では、高度専門職学芸員養成を目的に、学芸員養成課程を修了もしくは履修中の本学学生を学芸調査員として博物館で雇用している。
- 5 SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)で、西南学院大学博物館がアカウントを取得し管理しているのは、Twitter(<https://twitter.com>)、Facebook(<https://www.facebook.com>)、Instagram(<https://www.instagram.com>)である(2017年1月現在)

山尾 彩香(やまお あやか)

西南学院大学博物館学芸研究員